令和元年度離島漁業再生支援交付金漁業集落実績報告

１．集落の状況及び集落協定の概要

都道県名：鹿児島県

市町村名：瀬戸内町

島　　名：奄美大島

協定締結集落名：瀬戸内漁業集落

交付金額合計：１１，２０６千円

（１）基本交付金：１１，２０６千円

（２）新規就業者特別対策交付金：　　１，５１１千円

協定参加世帯数：８０世帯、８０人（うち漁業世帯　　世帯、８０人）

鹿児島県の都市部の勤労者世帯の有業者一人当りの平均勤め先収入 3,488,618 円(H31)

２．協定締結の経緯

良好な資源を有する海域を、漁業者が適切に管理・保全することにより周辺水域の有効利用を図ってきたところである。

しかし、漁業者の減少や高齢化が進行し、魚価の低迷や燃油の高騰により、地区の漁業は厳しい状況におかれている。このままの現状を放置すれば本町の漁業は一層衰退し、水産業・漁村における多面的機能も失われていく懸念がある。

このことから、沿岸漁業資源の維持・増大、漁場環境の保全、漁業集落の活性化、漁獲量の増加等、所得向上を目指して、離島交付金による漁業再生活動に取組むこととした。

３．取組の内容

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

（１）種苗放流

【スジアラ放流活動】

実施日：令和元年１１月１４日

内　容：大島海峡湾内９海域において、スジアラの稚魚２，０４０尾の放流を行った。

（２）漁場の管理・改善

【サンゴ保全活動】

実施日：令和元年１０月　２日

内　容：瀬戸内町大島海峡内(手安他６海域)において、サンゴに食害を与えるオニヒトデ、及びレイシ貝ダマシの駆除作業を行った。（オニヒトデ：20 匹、レイシ貝ダマシ：409 個）

【サメ駆除活動】

実施日：令和元年　８月　１日～令和元年　９月１４日

内　容：買い取り方式によるサメ駆除活動を行った。（69 件、4,130.1 kg、434 匹）

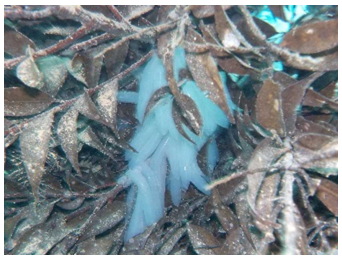
（３）産卵場・育成場の整備

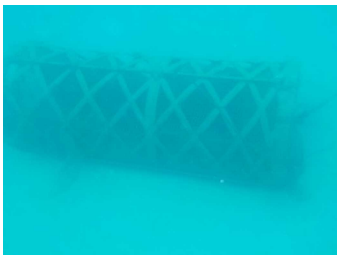
【追跡調査】

実施日：平成３１年　４月１４日　～　令和２年　３月１８.日　計３回実施

内　容：産卵場育成場整備の効果を確認するため、平成３０年度、令和元年度に設置したイカ柴の追跡調査を行った。

また、平成３０年度に設置した実験礁の追跡調査を平成３１年４月に行った。

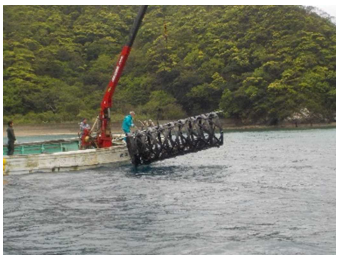




【イカ柴設置活動】

実施日：令和２年　２月１６日　～　令和２年　３月　８.日　計２回実施
内　容：１回目、薩川湾他近海域へ（計１０カ所）投入。
　　２回目、諸数湾他近海域へ（計１０カ所）投入。
　　各場所に合計イカ柴４００基の設置を行った。

【実験礁設置活動】
実施日：令和２年　３月　７日　～　令和２年　３月１５日
内　容：瀬戸内漁協先埋立地において、実験礁の網及び貝殺詰め等の製作作業を行い、
　　令和２年年３月１５日に瀬戸内町白浜海域に実験礁１基設置した。



（４）漁場監視
【密漁監視】
実施日：令和元年　９月２８日
内　容：瀬戸内町の海浜１５カ所において、密漁禁止の啓発を目的とした巡回を行った。

②漁業の再生に関する実践的な取組状況

（１）販路拡大

【販路拡大】

実施日：令和元年　７月　～　令和元年　１１月（計２回）

内　容：鹿児島市「おいどん市場」において、奄美大島産かつおシビの解体実演及び試食会を行った。

実施日：令和２年　２月１４日　～　令和２年　２月１８日

内　容：兵庫県尼崎市で開催されたイベント物産展に参加し、漁協直販店と連携して加工品の試食や町内産の水産物の PR を行った。

（２）加工品開発

【加工品開発】

実施日：平成３１年４月～令和２年３月

内　容：キハダマグロ（小シビ）、マグロの胃袋、ソデイカゲソなどの低未利用資源を活用した加工品開発を、延べ１５６回行った。

（３）魚食普及

【食育支援活動】

実施日：令和元年　７月～令和２年　３月（計３回）

内　容：瀬戸内町内小学校や加計呂麻島小学校の児童や保護者を対象とした捌き方教室を延べ３回実施した。

【魚食普及活動】

実施日：平成３１年　４月～令和元年１２月

内　容：魚食の普及を目的として、大漁祭りや町内外のイベントにおいて、地魚の試食販売、模擬釣り体験、解体実演等を実施した。

③新規就業者に係る取組状況

【新規就業者に関する取組】

実施日：平成３１年　４月

内　容：新規就業者１名に対して、漁船のリースを行った。

４．取組の成果

①　漁場の生産力の向上に関する取組状況

（１）　種苗放流

【スジアラ放流活動】

スジアラの稚魚を放流したことにより、地先資源の増大が期待される。

（２）漁場の管理・改善

【サンゴ保全活動】

オニヒトデ、及びレイシ貝ダマシを駆除したことにより、一部の海域ではサンゴの回復の兆しが見られるようになり、漁場環境の改善に期待できる。

【サメ駆除活動】
　継続的に駆除したことにより、駆除数量は年々減少傾向にあり、それに伴いサメによる漁具被害等も減少している。

（３）産卵場育成場の整備
【イカ柴設置活動・追跡調査】
　人工イカ産卵場４００基を２０箇所の海域に設置し、その後の追跡調査によりアオリイカの産卵が確認されたことで、資源管理の充実が図られ、漁獲量の増大に期待できる。
【実験礁設置】
　実験礁設置することにより､イカの産卵や小魚などが住みつくことが確認されたことで、資源管理の充実が図られ、今後の漁獲量の向上が期待される。

②　漁業の再生に関する実践的な取組状況
（１）流通体制の改善
　活魚槽を利用することにより、出荷調整ができ、魚価の安定が図られた。
　また、マグロ・カジキ出荷用の鮮魚コンテナを利用することによって、荷姿の悪化を防ぎ、魚価の向上に繋がった。
（２）販路拡大
　鹿児島県与次郎館、兵庫県尼崎市で開催された物産展に参加し、未利用資源を活用した加工商品や地魚のＰＲを行ったことで認知度が高まり、今後の販路の拡大に期待される。
（３）加工品開発
【加工品開発】
　安価な水産資源を活用した加工品開発に取組み、魚価の向上と集落の活性化が図られ、今後の魚価の向上に期待される。
（４）魚食普及
【食育支援活動】
　児童や保護者を対象にした捌き方教室を実施し、地魚の知識や調理法を広めたことで、今後の消費拡大に期待できる。

【魚食普及活動】
　町内イベント等において、試食会や新鮮な魚介類の提供、子供達の体験学習としての魚のつかみ取り等を実施したことで、魚食の普及が図られた。